

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Autumn 2019

Vol. 44

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJJYUEN

TOPICS

MORE CROSS

HOJJYUEN×FAMILY

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOJJYUEN'S ALBUM

SPECIAL SECTION

トピックス



消防訓練をおこないました！

8月14日に、今年度第1回目の消防訓練を行いました。当日は、日中に厨房から出火したという想定で、消火や通報、避難誘導の手順を確認しました。これから空気が乾燥し火災が心配される季節を迎えますが、豊寿園では日頃からの訓練を重ね、万が一に備えています。



救急法の研修をおこないました！

9月3日に、職員研修としてAEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行いました。当日は、日頃、豊寿園で活動いただいている北九州赤十字看護奉仕団じゅんの会の皆さんも受講され、様々な手技と一緒に学んでいただきました。

デイサービスの運営推進会議を開催しました！

9月17日に、今年度第1回目のデイサービス運営推進会議を開催しました。この会議は年に2回、デイサービスをご利用いただいている方のご家族、地域の方、行政・有識者を交え開催しており、今回は運営状況や、運営中に発生した事故等を報告し、出席者の方々から様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を参考にさせていただきます、より良い運営を目指してまいります。





夏休み福祉体験講座が豊寿園で開催されました！

毎年恒例の夏休み福祉体験講座が今年度も開催され、参加された門司区内の小学生達が仕事体験や利用者様との交流で夏休みの思い出を作りました。



老人クラブ連合会の研修会へ出講しました！

北九州市老人クラブ連合会からご依頼いただき、「口腔ケアによる健康づくり」をテーマに豊寿園の佐伯歯科衛生士が研修会に出講しました。



地域のサロンに参加してきました！

豊寿園のすぐ近くの北九州市立松ヶ江北市民センターのサロンへ利用者様と一緒に出かけました。当日は、ギターの演奏にあわせて参加者で歌を楽しみました。



地域の小中学校で車いすの出前講習を行いました！

豊寿園のある北九州市門司区にある小学校や中学校へ、職員が車椅子の講習にお邪魔しました。当日は、車椅子の操作方法を説明し、実際に児童の皆さんに車椅子の体験をしていただきました。

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は、9月に豊寿園でお看取りさせていただいた山中様の最期までの容体の変化を奥水介護課長の手記や記録を基にご紹介します。
※本記事については、ご遺族の承諾のもと掲載しております。

山中様は平成19年に豊寿園へ92才で入所されました。入所する前にご自宅で転倒され、硬膜下血腫で入院。認知症の発症と歩行困難で在宅生活が難しくなり、市外の施設に入所されましたが、長女様の自宅のある門司区の特養へ入所させたいと豊寿園にお申し込みをいただき、平成19年に入所されました。入所当初は要介護4でした。自力で食事をされていましたが、徐々に咽ることが増え介助が必要になっていきました。それでも入所されてからの5年間は体調を崩すこともほとんどなく、医療機関に入退院することなく過ごされました。

平成19年に92才で豊寿園へ入所されました。



写真 豊寿園に入所して間もない頃の山中様ご家族と一緒に行事に参加された時の写真

98歳で初めて入院をされました。98歳の年に、気管支炎の診断で入所後初めて入退院をされましたが軽快され、翌年、豊寿園の敬老会で白寿(99才)のお祝い状をお受け取りになりました。その翌年には無事に100歳を迎えられ、以降毎年敬老会でお祝い状をお受け取りになります。100歳の年には気管支炎から軽度の誤嚥性肺炎、尿路感染による熱発での入院がありました。入院中には食事や水分の摂取にムラがみられましたが、ご家族が積極的な加療を希望されず、将来的に豊寿園での看取りを視野に入れつつ、その都度退院し豊寿園に戻って来られました。戻ると少ない水分と食事量で安定し、結果、103歳の誕生日を祝うことができました。しかし、103歳を迎えた翌月、微熱が続き受診すると、嚥下性の気管支炎と診断され入院となりました。入院を機に再び食事・水分の摂取が著しく低下していきました。病院で主治医とご家族、豊寿園職員とで今後の方針を相談し、主治医からは認知症の終末期であると告げられました。ご家族はそれまで病院で受けていた500ml/日の点滴を止めて欲しいと希望され、豊寿園に看取り対応として戻ることとなり退院されました。平成30年5月29日に退院。ご家族4姉妹が来園され、看取りについての説明をおこない、看取り対応が開始とな

りました。熱発等、体調の変化がなければ、今まで通り車椅子で皆さんと一緒に過ごしていただき、ご家族の面会時には、陽にあたる場所でも日向ぼっこをしたり、レクリエーションやボランティアの活動、園内行事にも参加をすることができていました。食事は高カロリーのゼリーで700kcal/日 水分は500ml/日で1ヶ月過ぎることができ、3ヶ月、6ヶ月、9か月と過ぎ、無事に104才の誕生日を迎えることができました。「さすが山中さん。」「たしか看取り対応中でしたよね。」「と改めて思うほど、安定した生活を送られていました。職員と共に雛祭りの行事に参加され、その時に撮った写真を枕元に飾っていました。

看取り対応開始から一年が経ち、変化は突然やってきました。

看取り対応開始から1年を迎え、「あれから1年経ちました。」「お母さん頑張っていますね」が合言葉になっていました。大正生まれの山中様は大正・昭和・平成・令和と4つの年号を過ごされることになりました。このままずっと元気でいられるのではないかとご家族も私たち職員も思っていた矢先、変化は突然やってきました。(※以降は手記・記録を抜粋・構成したものです)

HOUJYUEN × Family

9月4日「面会中だったご家族より「身体が熱い」と申しであり。体温を測ると37.7度、痰が絡むようになったため吸引も必要になった。喘鳴もみられるようになってきたため、嘱託医より絶飲食の指示が出る。その後も微熱が続き、食事摂取が困難となってきた。

9月10日 日中吸引ができる時間帯のみ水分を摂取していただいているが、吸引自体ご本人には苦痛であり無理に摂取を勧められない状況になっていることを看護師よりご家族へ説明。覚悟する時期が来たことをご家族と共有し、連絡方法について再度確認を行う。

9月11日 介護職員より「職員が複数確保できる時間帯に、入浴を行いたい」と意見。9時30分より看護師と共に機械浴で入浴。「うゝ、ふゝ」等声が出ている。リラックスしているような表情が見てとれた。口腔内をジェルで随時保湿するのみ、水分は摂取されていないが、排尿はまだある。

9月12日 ご本人の好きなミルクコーヒーをスポンジに湿らせ口腔内にゆくり拭つていると口を動かし吸ってゴックンした。この日も排尿あり。

9月13日 夜間帯、目が開いている。口腔内をジェルで保湿する。ご家族を交えてカンファレンスをおこなう。ご家族は「病院だったら、ここまでできなかった。」と話された。

― 最期の敬老会にご家族と一緒に参加されました。 ―

9月14日 前日夜間帯より、無呼吸が20秒前後あり、その後「あく」と深い呼吸が見られた。コーヒーを口に運ぶとスポンジを吸われた。

本日当園の敬老会。園最高齢の山中様。正直、敬老会の日までは無理かと思われたが今日の日を迎えることができた。

午前中に次女様が、午後より長女様が面会に来られた。嘱託医が往診し、厳しい状態と説明を受けられる。105歳を祝う敬老会は14時から予定していたが式典への参加は無理と判断し、急遽、お祝い状を居室で贈呈することとした。準備されていた式典用の衣装に着替えていただき長女様と一緒にベッド上で園長から6回目となるお祝い状を受けとられる。介護職員、看護師や生活相談員、事務職員等が交互に「おめでとーございませす」と声をかける。そしてご家族、当日の出勤者と記念撮影をおこなった。表情は穏やか。みんな笑顔で部屋中が明るい雰囲気包まれた。「きつと聞こえていますよね」と笑い声が響いた。

14時に予定通り式典が開会。と同時に無呼吸から呼吸が完全に停止。看護師から、式典を見学されていた長女様に伝え、急ぎベッドサイドに戻っていた。するとそれを待っていたかのように「ふゝ」と最後の息をつかれ、完全に呼吸は停止した。「山中さんは、きつ

とこの日を選んだんですね。土曜日の敬老会の為、多くの職員が出勤していました。朝が少し苦手な長女様が面会に来る時間にも合わせて、ご家族と職員みんなに見送られたかったんでしょう。「多くの職員でその後お着替えを行った。お身体には、褥瘡はもちろん内出血もない。「こんなにしていただいて、本当にありがとうございます。」「ご家族から感謝の言葉を頂いた。私達からも「本当にありがとうございます。」「ご家族から感謝の言葉を頂戴しました。山中様の生きざまを側で寄り添い見届けることができた事に感謝です。」多くの職員が玄関に集合し、最期のお見送りをすることができました。山中様、豊寿園での12年間たくさん笑顔を思い出をありがとうございます。



写真 お祝い状を受け取られ、長女様・職員とで撮影した記念写真

地域ぶらり情報



焼きカレーとスイーツが楽しめる

門司港駅より海峡プラザ方面に進むと、『Dolce』があります。以前より焼きカレーが堪能できる緑の看板が目印の『喫茶DOLCE』がありましたが、門司区栄町商店街にあった『手作り菓子工房ドルチェ』が昨年2月隣に移転しました。入口は2ヶ所ありますが、どちらから入っても焼きカレーやパティシエが作ったスイーツが食べられます。店内は喫茶の方はレトロ、スイーツの方はナチュラルな雰囲気なので、どちらも楽しんでみてください。おススメは、ご飯の上に野菜と卵、10種類以上のスパイスを入れ、3日間以上かけて煮込んだ自家製カレーをかけて焼き上げる焼きカレー。卵が絡んでまろやかな味です。スイーツは、旬の果物を使ったケーキやロールケーキ、焼きドーナツは十数種類の味があります。門司を取り扱った、門司港名物焼きカレードーナツ、門司区のキャラクターの“じーも”もなか、猿喰甘酒を使用したもなか等もありますので、ぜひ門司のお土産にいかがですか。『DOLCE』に行って、お気に入りの味を見つけてみてください。

BAKED CURRY & SWEETS

Dolce

北九州市門司区港町6-12

TEL 093-321-4700

(ケーキの予約)

093-331-4700

(食事の席の予約)

定休日 火曜日(祝日の場合は営業)

OPEN 9:00~18:00



あとがき

もう少しで40歳を迎える私は年々涙腺が緩んできたのを実感します。子供がおつかいに行く番組なんかはティッシュがいくらあっても足りません(笑)。

豊寿園では、今年度に入って4名の方をお看取りさせていただきました。最期を迎えられた方を園からお見送りするため移動している最中にも、すぐ近くでは職員の介助で一生涯懸命に食事を口にされ、今を生きている方達がたくさんホールにいらっやいます。同じ建物の中で生と死とが生活という時間の中でもともにある特養は本当にすごい場所だと心から感じる瞬間です。ご縁あって豊寿園に来ていただいた利用者様お一人おひとりが織りなす布に、少しでも彩りを加えるお手伝いができるよう、日々寄り添ってあげればと考えるこのごろです。

そんなことを考えながら、利用者様の近くで日々奮闘する豊寿園職員達の頑張りを、紙面から感じていただければ幸いです(涙)。今後も豊寿園に是非ご期待ください。

豊寿園広報担当 森 英樹

今回のCOVER



今回表紙を飾ってくれたのは、2階介護職員の加賀江 花純さんです。入社2年目の期待の若手職員です。ひとり息子の笑晴(しょうせい)君と門司港レトロでの撮影に協力してくれました。撮影中は、職場では見せないお母さんの一面を収めることができました。

発行日：令和元年10月15日

発行元：日赤豊寿園

編集：令和元年度日赤豊寿園広報担当者

表紙撮影：城戸匡美(1階介護職員)

撮影場所：門司港レトロ

所在地：〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5

TEL 093-481-1121 FAX 093-481-5678

Email info.houjyu.jrc@cnc.bbq.jp

介護一口メモ

C A R E M E M O

今回のテーマは「介護保険の改定」についてです。10月からの消費増税にあわせて介護保険が一部改定され、利用料金も変更となります。特養の変更点を中心にご紹介しますのでご確認ください。

特養の利用料について（1割負担の場合）

要介護度	改定前(円/日)	改定後(円/日)
要介護1	565円	567円
要介護2	634円	636円
要介護3	705円	707円
要介護4	774円	776円
要介護5	841円	844円

一か月分（30日として）で約60円利用料が増額となります。

特養、ショートステイの食費・居住費について

	改定前(円/日)	改定後(円/日)
食費	1,380円	1,392円
居住費(多床室)	840円	855円
居住費(個室)	1,150円	1,171円

一か月分（30日として）で食費が360円増額となります。

一か月分（30日として）で居住費（多床室）が450円増額となります。

※負担限度額認定証をお持ちの方は、これまで通りの額に減額されます。

ご家族の皆さまへ

改定された利用料金の詳細については、お配りした利用料金表をご確認ください。

利用料金についてご不明な点がございましたら各担当までお問合せください。

敬老会



9月 多くのご来賓やご家族に見守って頂く中、敬老会を開催しました。今年度は11名の喜寿・米寿・白寿・百寿をお祝いしました。また、式典中に行ったボランティア表彰では、門司区福祉ボランティア一期会の小田様に感謝状を贈呈させていただきました。皆様おめでとうございます。

三線鑑賞会



8月 中川克彦様等をお招きし、三線による沖縄民謡の鑑賞会を行いました。最後は皆さんで歌って踊って楽しいひと時を過ごさせていただきました。



七夕



7月 新門司保育所園児さんと一緒に七夕の飾りつけや交流を行いました。

デ イ サ ー ビ ス

新門司保育所交流



7月 園児と七夕の飾り付けを行いました。

ドライブ



9月 門司港レトロ駅を見学に行きました。

松ヶ江北小学校
交流



8月 松ヶ江北小学校の児童さん一緒にゲームを楽しみ、笑顔いっぱいになりました。

納涼会



8月 納涼会でゲームや炭坑節を踊ったりしました。
「昔を思い出して楽しかったよ。」と喜んでいただけました。

令和元年8月豪雨災害義援金

令和元年8月の前線に伴う大雨災害により、佐賀県に甚大な被害が出ました。この災害で被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けております。お寄せいただいた義援金は、全額を被災地にお届けいたします。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

これまでの受付金額	4,091万3,035円(1,580件)(2019年9月16日現在)
受付期間	2019年9月2日(月)から2020年2月28日(金)まで
受付方法	ゆうちょ銀行・郵便局、銀行振り込みにて受け付けいたします。詳しくは日本赤十字社のホームページにてご確認ください。豊寿園窓口でも募金箱を設置しています。

義援金が被災された方に届くまで

—お寄せいただいた義援金は全額を被災された皆様にお届けします—

1

各被災都道府県における義援金配分委員会の設置

各被災都道府県は、日本赤十字社の各都道府県支部やその他の義援金の受け入れ団体、報道機関などの関係者からなる「義援金配分委員会」を設置し、義援金の配分について協議、決定します。

2

義援金の募集、受け付け

日本赤十字社は義援金の受け付けを開始します。

3

日本赤十字社から義援金配分委員会への送金

日本赤十字社はお寄せいただいた義援金を全額各被災都道府県に設置された義援金配分委員会へ送金します。

4

配分対象市町村への送金

各都道府県の義援金配分委員会の決定に基づき、管下の配分対象市町村へ義援金が送金されます。

5

市町村から被災者への義援金の配分

被災された方がたからの申請に基づき、各市町村から義援金が届けられます。

令和元年8月九州北部豪雨と日本赤十字社の災害救護活動

令和元年8月九州北部豪雨では、長崎県から佐賀県、福岡県にかけての広い範囲で、8月28日を中心として観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となりました。

日本赤十字社佐賀県支部では、8月28日に「佐賀県支部災害救護実施対策本部」を設置して情報収集を開始しました。一夜明けた29日(木)、各地の被害状況が徐々に明らかになる中、日本赤十字社では、避難所の医療ニーズを調査するため、医療救護班4班(佐賀県1班・福岡県2班・熊本県1班)の派遣を決定し、避難所での医療ニーズの調査などを開始しました。また、救援物資の確保を行い、いつでも届けことが出来るように準備をしました。

(※下の写真は今回の災害における佐賀県での日本赤十字社の活動の様子を撮影したものです)

日本赤十字社の災害救護活動とは

日本赤十字社の災害救護活動には、赤十字の人道的任務として自主的判断に基づいて行う場合と、災害対策基本法や武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律(国民保護法)における指定公共機関として、国や地方公共団体の行う業務に協力する場合とがあります。

これらの災害救護活動を円滑に行うため、法律に基づき日本赤十字社防災業務計画や日本赤十字社国民保護業務計画を作成し、準備を行っています。

医療救護

日本赤十字社は、災害時に備えて、赤十字病院の医師、看護師などを中心に編成される救護班を全国で約500班(約7000人)編成しています。

災害が発生すると、ただちに救護班(1班あたり医師・看護師ら6人)やdERU(国内型緊急対応ユニット)を派遣し、救護所の設置、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動などを行います。



各県から集まった救護班の到着報告



救護班の避難所での医療ニーズ調査



救護班の避難者の体調確認の様子



救援物資の積み込み作業

救援物資の配分

日本赤十字社は、被災者に配分するため、日ごろから毛布や日用品セット、安眠セット、緊急セットを備蓄しています。

血液製剤の配給

日本赤十字社は、災害時にも血液製剤を円滑に確保・供給するため、各血液センターで必要な血液製剤を備蓄するとともに、全国的に血液需給を調整する体制をとっています。

義援金の受付・配分

日本赤十字社は、被災された方々への見舞金である災害義援金の受付を行っています。

受け付けた義援金は、第三者機関である義援金配分委員会(被災自治体、日本赤十字社、報道機関等で構成)に拠出され被災者に配分されます。

Autumn **2019**

Vol.44

TOPICS

MORE CROSS

HOUJYUEN×FAMILY

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOUJYUEN'S ALBUM

SPECIAL SECTION



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN